

令和3年度 特別活動実践・研究計画

部員	○村上宙思, 松橋純子, 稲垣勇介, 福田佳子, 藤田 峻, 鈴木 聡
----	-------------------------------------

研究テーマ
**仲間との関わりを主体的に求め、学校生活の充実と向上を目指す
 子どもを育む学び**
 ～よりよい人間関係を形成する学級活動を通して～

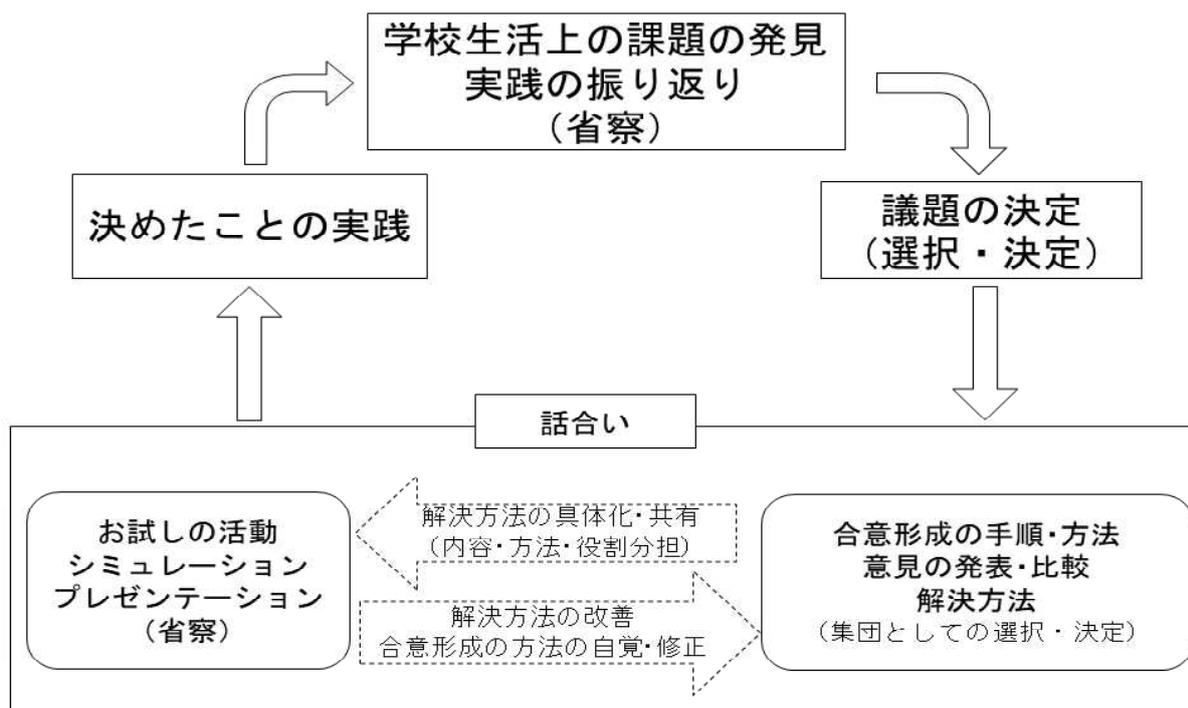
1 研究テーマについて

特別活動は、多様な他者との様々な集団活動を行うことを基本とし、そこでの「話し合い」をすべての活動の中心においている。そのため、本校の特別活動部では、すべての特別活動の中心となる「話し合い活動」の在り方を探っていくことを重視し、実践研究に取り組んできている。昨年度の実践では、指導計画上に体験的活動を基にした具体的な省察を効果的に位置付けることによって、課題や論点が焦点化され主体的な話し合い活動につながることを見いだすことができた。また、よりよい合意形成に向けた手順・方法を選択し、共有することで司会グループも参加者も見通しをもって話し合いに参加することが可能になることが分かった。

その一方で、課題解決に向けて、互いの考えのよいところを生かしながら合意形成を図る経験を積み重ねていく必要があるという課題も見えてきている。

こうした成果と課題を踏まえ、主体的に話し合い、合意形成していく力の更なる向上を図るために、今年度も研究テーマを継続し、実践・研究を進めていく。「仲間との関わりを主体的に求め、学校生活の充実と向上を目指す子ども」とは、所属する集団に積極的に関わり、多様な他者と話し合い、協力しながら様々な課題を解決し、学校生活をよりよいものにしていくとする子どもの姿である。また、「よりよい人間関係を形成する」とは、生活上の課題の解決に向けた実践を通して、仲間と話し合うことのよさ、協力して活動を成功させる喜び等を味わうことによって、子どもたち同士が人間関係を自主的・実践的によりよいものへと形成していくことである。

互いの意見の違いや多様な考えがあることを大切に、学級や学校の形成者としての「見方・考え方」を働かせながら、学級としての考えや取組について合意形成していく過程を工夫をすることで、研究主題の「自律した学習者」を目指したい。特別活動の学級活動(1)における自律した学習者を育てる学習のプロセスを以下のように示す。



特別活動の学級活動(1)における自律した学習者を育てる学習のプロセス

また、特別活動における「学びをつなぎ資質・能力を高めている子どもの姿」を、次のように捉え、具現化を目指していく。

他者と共感的かつ建設的に関わり、学級や学校の形成者としての「見方・考え方」を働かせながら、学校生活がよりよくなるように主体的・協働的に考え、話し合い、解決策を導き出す姿

2 研究の重点

(1) よりよい合意形成に向けた手順・方法を選択し、共有するプロセスの工夫

子どもたち主体の話し合い活動とするために、合意を形成して決定するプロセスを子どもたちに委ねていく必要がある。そこで、課題解決のためにどのような方法や手順で話し合うのが適切であるのか、司会グループが中心となり合意形成に結び付く論点や手順、方法を選び共有する場を設定する。昨年度の実践では、これまで用いてきた合意形成の方法を整理し「話し合いの技」として選択肢を示したり、意見カードを基に、司会グループと事前に話し合いの展開をシミュレートする場を設けたりすることであらかじめ見通しがもてるようにした。このように、子どもたち自身が課題解決に向けた手順や論点、解決方法を選択・決定し、よりよい考えを協働的に導き出す経験を積み重ねることで、集団として合意形成を図る上で必要な資質・能力を身に付けることができるようにしていく。異なる意見や考えを基に、様々な解決方法を模索したり、互いの考えのよいところを生かしたりしながら合意形成を図り、実践していく過程を通じて多様な他者と協力し、よりよい人間関係や生活を築いていくことができるようにしたい。

(2) 学校生活上の課題・解決策を具体的に捉え直し、改善点を見いだす省察の工夫

学校生活の充実と向上を図るためには、協働して取り組むべき課題を子どもたち自身が見だし、必要感をもちながら話し合い解決していくことが大切である。そのためには、これまでの生活や実践を見つめ、課題や提案理由、解決策等を自分たちのものとして具体的に捉え直す省察の場を位置付けることが重要である。これまでの実践から、プレゼンテーションの場を設け具体例を示す、「お試し」の活動として体験的活動を行う、仲間が行うシミュレーションやこれまでの活動を基に改善点を見つける、といった活動を設定することで、具体を基にした省察が可能となることが見えてきている。こうした省察を基に、一人一人の意見や提案理由を共有し、課題解決への見通しをもったり、共通の視点をもって考えを比べ合いながら話し合い工夫や改善を進めたりすることができるように支援していく。また、省察の場を工夫することで、話し合いを建設的に進める上で必要な力とその高まりを自覚しながら、主体的に課題解決に取り組む子どもの姿へとつなげていきたい。

3 研究・研修計画

時 期	主な研究・研修行事	研究・研修内容
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別活動部会 ・ 附属中学校公開研究協議会 ・ 附属小学校公開研究協議会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実践・研究計画の確認 ・ 附属中学校との共同実践・研究 ・ 授業づくり、授業力向上 ・ 授業を通して重点事項の検証
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究パンフレット執筆 ・ 附属中学校秋季授業研究会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実践・研究のまとめ ・ 小中連携、共同実践研究 ・ 附属中特活部への研究協力
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別活動部会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実践・研究計画の立案

通年：年間指導計画及び資質・能力表の加除・修正